

『資本論を読む会』☆まとめの会 (第8回目)の案内!

DAS CAPITAL

【次回は】 2019年4月25日(金)午後6時から
会場:支局・社青同事務所

◎次回は「第1章と第2章のまとめ!!」

3月19日に行われた「資本論を読む会」には、選挙期間のため皆さんお忙しく、5人で第2章「交換過程」を終わらせました。次回は、こりまで参加できなかった方のフォローを兼ねて、一気に「第1章と第2章のまとめ」をやることとしました。これまで参加できなかった方は、この機会にどうぞご参加下さい。

『資本論第一分冊』(国民文庫)は、社青同にも何冊か在庫があります。

これまでのレポート・資料は、ホームページでご覧下さい。

◎ <http://socialistho.cafe.coocan.jp/>「資本論を読む会」コーナーにあります。

レポーターから「第2章交換過程」のレポーターからのメモ

①貨幣、貨幣形態があらわれる。

■交換が広がると、いろいろな商品の等価物となる商品が出現する。

・一般的等価形態の役割を果たす。・商品交換の発展につれ、一般的等価形態は特殊な商品＝貨幣となる。

・貨幣形態が生まれる。

(前々回の読む会、第一篇商品と貨幣、第一章商品、第三節価値形態または交換価値の資料をご覧下さい)

A単純な、個別的な、または偶然的な価値形態

$$x \text{量} A \text{商品} = y \text{量} B \text{商品}$$

B総体的または拡大せる価値形態

$$z \text{量} A \text{商品} = u \text{量} B \text{商品} \quad \text{または} = v \text{量} \text{商品} C \quad \text{または} = w \text{量} \text{商品} D \quad \text{または} = x \text{量} \text{商品} E \quad \text{または} = \text{その他}$$

C一般的価値形態

D貨幣形態

②前回の読む会は、第一篇商品と貨幣、第一章商品、第四節商品の物神的性格とその秘密でした。

この中で、物神礼拝に触れられていましたが、今回の第二章ではさらに以下の表現があります。

※『貨幣物神の謎は、商品物神の目に見えるようになった、眩惑的な謎であるにすぎないのである。』

・この貨幣の物神性は、商品物神の神秘が目に見えるようになったのであり、より完成されたものである。

・この商品の物神性は、貨幣の物神性、さらには資本の物神性として完成されるのである。

物神崇拜～商品や貨幣が人間を支配し、人間がそれらを神のように崇める(あがめる)こと。

物神支配～神ではなく、商品・貨幣に支配される。

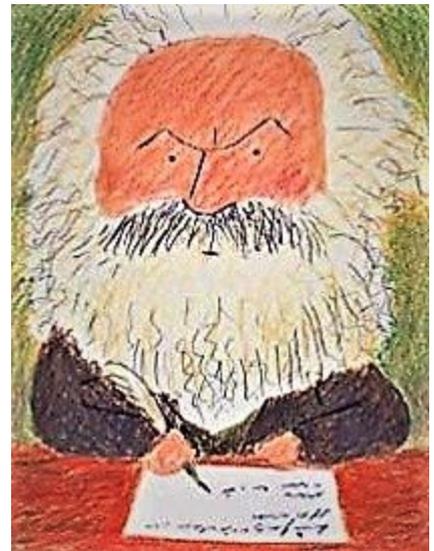
③「金や銀などの貴金属が貨幣となる。」

鉄や銅でもよかったのでは?

・NHKの放送で東日本では金が、西日本では銀が貨幣として流通していて、徳川が権力を制圧して金に統一された旨、放送されていたような気がします。

・鉄や銅では、その価値から、等価形態として、金や銀と比べて相当の量・重さとなり、貨幣として

は役にたたなかったのでは?



☆参加希望の方は、できれば事前に、事務局または発起人にまでご連絡ください。

☆「これからの社会主義」掲示板.<http://bbs6.sekkaku.net/bbs/socialisth.html>にも書き込みがあります。参考にしてください。

